2020.09.01

都市経済学の講義を理解するために、読んで欲しい本を紹介します。

＜ミクロ経済学の本＞

都市経済学の講義は、ミクロ経済学を前提に講義をします。ミクロ経済学をある程度理解していると講義の内容が、よく理解できます。

・「ミクロ経済学の基礎」小川 光、 家森 信善（中央経済社）

どうしてもミクロ経済学が好きになれない人に読んで欲しい 1 冊です。ミクロ経済学に抵抗のない人には、簡単すぎて不向きです。

・「入門ミクロ経済学」井堀 利宏（新世社）

ミクロ経済学の初心者向けです。この本が理解できない時は、小川&家森「ミクロ経済学の基礎」から勉強してください。この本が理解できれば、都市経済学の講義は十分理解できます。

・「ミクロ経済学 Expressway」八田達夫（東洋経済新報社）

経済政策問題への対応まで意識した内容になっています。井堀「入門ミクロ経済学」が読みにくいと感じた人は、こちらの本で学んでみてください。制度設計に興味ある人は、こちらの本がお勧めです。

＜都市経済学の本＞

都市経済学の講義を理解するための本です。ミクロ経済学をある程度理解できている人は、これ以降の本を読んでください。

・「都市経済学の基礎」佐々木公明・文世一（有斐閣アルマ）

タイトルに「基礎」とありますが、部分的に難しいところがあります。全てを理解しようと読むのでなく、まずは都市経済学の輪郭を把握するための本と思ってください。

・「都市経済学」高橋孝明(有斐閣ブックス)

都市経済学は、都市計画と経済学の学際的な学問で対象範囲も広いです。この本は、地域経済も含めて土地・住宅さらには交通問題まで解説しており多くを学べます。

・「都市経済学」山崎福寿・ 浅田義久(有斐閣ブックス)

絶版になっていますが、やさしい解説で分かりやすい本です。図書館などで借りて読んでください。

＜都市と地域を理解するための本＞

都市経済学の背景や周辺を理解するための本です。講義でもたくさんの本を紹介しますが、代表的な 2 冊をあげておきます。

・「都市と地域の経済学［新版］」黒田達郎・中村良平・田淵隆俊(有斐閣ブックス)

都市経済学と地域経済学をカバーした本です。上記の都市経済学の本と一緒に読むと、一段と理解が深まります。

・「発展する地域衰退する地域:地域が自立するための経済学」Jane Jacobs(原著)中村達也（翻訳）（ちくま学芸文庫)

経済学の本ではありませんが、Jane Jacobs の都市に対する考え方や都市政策に関する考え方を学べます。都市計画や地域政策に興味のある人は、読んでください。